

令和8年 3月11日

記録：井上 里美

令和7年度学校関係者評価委員会 報告書

令和8年3月11日に、学校関係者評価委員会を本校理事長室で実施しました。
その結果を下記のとおりご報告いたします。

記

1. 会議概要

- ・開催日時：令和8年3月11日（水）15：00～16：15
- ・開催場所：日本総合ビジネス専門学校 理事長室
- ・委員
出席者：松尾祥子（株式会社ソフィア総合研究所 キャリアコンサルタント）
服部直子（大垣市医師会看護専門学校 専任教員）
氏原栄子（医療法人守田クリニック 事務長補佐）
高橋綾乃（株式会社偕拓堂ギャラリー「美術の森」
イラスト教室講師 卒業生）
校長 小川義隆（委員長）
講師 北村伸司、山口祐生、山北麗子
欠席者：吉田茂樹（情報科学芸術大学院大学 教授）
- ・オブザーバー
理事長 白井功、理事 高橋伊三男
- ・書記
事務主任 井上里美

2. 学校関係者評価委員会議題

- ①開会
- ②校長挨拶
- ③自己紹介
- ④教育理念・令和7年度教育方針の確認
- ⑤自己点検・評価結果の説明と確認
- ⑥委員による評価および意見交換
- ⑦閉会

3. 審議内容

議題④令和7年度 学校理念・経営方針・教育方針について

【学校理念】

中庸を旨とし、勤労を尊び、職業人としての総合能力を有する
人間性豊かな人材の養成

【経営方針】

1. 経営基盤の維持強化
建学の精神を具現化して、安定した経営と教育の充実をはかる
2. 地域社会に貢献できる徹底した専門教育の展開
専門教育を一層推進し、地域社会に貢献できる人材を養成する
教職員が実りのある教育を実践する
3. 時代の流れを読み、社会のニーズにこたえる人材づくりの推進
時代の変化に即応した専門教育を推進するとともに、果敢に資格試験にチャレンジし、即戦力となる人材を養成する

【教育方針】

- (1) 国家試験や各種資格取得により、社会人に有用なスキルの醸成
- (2) AI時代に必要とされる人材養成
- (3) 主体性のある即戦力としての人材教育

議題⑤自己点検・評価結果の説明と確認

議題⑥委員による評価および意見交換

服部委員：看護では、言われたことを出来るだけではなく、色々な患者様に対応できるように思考力が必要とされている。

卒業生に学校に来てもらって自分の経験談を話してもらい機会があり、学生が興味深く聞いていた。

氏原委員：医療現場にAIが入ってくると人、対、人の対応が難しい。

人とのコミュニケーションが大事な医療現場で、どこまで言語化できているか、が課題になってくる。

松尾委員：AIの時代、AIのスピードに追い付けるように、職員の研修が必須である。

教員側がAIを理解し、教えられないと「AIの野放し」になってしまう。
AIに頼りすぎて、学生自身が考える習慣が身に付かなくなる。教員側の技術者としての連携が必要である。

合理的配慮が必要な学生の対応や、保護者との連携を見直し、学校の存在意義をどこまで引き出せるか、が課題。

高橋委員：本校に在学中は、漫画家の先生に指導していただいたので、実際の漫画の世界をイメージすることができた。

自分が、実際に漫画家として活動を始めてから分かったことがあるので、在学中に漫画家の先生から話を聞ける機会がもっとあると良かった。

校内コンテストを実施したらどうか。

山北委員：何年前かに卒業した学生の現状調査を実施する話があったが、出来なかった。卒業生の現状を把握できると良い。

医療事務は資格をとることと、実際の医療事務の現場での知識が必要。

医療秘書学科は担当の先生が少ないため、他の講師と共有出来ていない。

以前は、年度始めの講師打ち合わせ会の後に分科会を実施していたが、最近では実施出来ていないので、医療秘書学科の講師で、方針について話が出来ていない。こういう学生を育てたいと言う共通認識を作ることが大切である。

北村委員：本校の卒業生の進路を把握し、その情報を検証してカリキュラムへの反映があると良い。具体的に、勉強しておく良かったことや、知らないと苦労すると言った、卒業生の声を聴くことは大事である。

本校の卒業生の就職してからの話を聞かせる機会があると良いのではないかな。

授業が始まる年度初めに、学科の講師と授業内容が重複しないように打ち合わせが必要ではないかな。

山口委員：キャリアガイダンスの先生が一人ひとりに寄り添って対応している

早くから企業の方に来ていただいて、学内の企業説明会も実施しているところは評価できる。